

(別添)

# 産業医科大学病院 公的医療機関等2025プラン

平成29年 9 月 策定

【産業医科大学病院の基本情報】

医療機関名：産業医科大学病院

開設主体：学校法人

所在地：福岡県北九州市八幡西区医生ヶ丘1番1号

許可病床数：678床

（病床の種別）一般病床：638床，精神病床：40床

（病床機能別）高度急性期：557床，急性期：81床

稼働病床数：678床

（病床の種別）一般病床：638床，精神病床：40床

（病床機能別）高度急性期：557床，急性期：81床

診療科目：

膠原病リウマチ内科、内分泌代謝糖尿病内科、循環器内科、腎臓内科、消化管内科、肝胆膵内科、血液内科、呼吸器内科、神経内科、心療内科、神経・精神科、小児科、消化器・内分泌外科、呼吸器・胸部外科、心臓血管外科、脳神経外科、整形外科、皮膚科、形成外科、泌尿器科、眼科、耳鼻咽喉科・頭頸部外科、産婦人科、放射線科、放射線治療科、麻酔科、リハビリテーション科、救急科、歯科・口腔外科、病理診断科

職員数：（非常勤含）

・ 医師	418名	・ 歯科医師	12名
・ 看護師	757名	・ 助産師	27名
・ 看護補助者	67名	・ 管理栄養士	6名
・ 薬剤師	39名	・ 放射線技師	36名
・ 理学療法士	16名	・ 作業療法士	6名
・ 言語聴覚士	3名	・ 臨床検査技師	48名
・ 臨床工学士	13名	・ 視能訓練士	6名
・ 精神保健福祉士	3名	・ 歯科衛生士	1名
・ 歯科技工士	1名	・ その他有資格者	29名
・ その他職員	97名		

各種指定

特定機能病院、地域がん診療連携拠点病院、総合周産期母子医療センター、エイズ治療中核拠点病院、災害拠点病院

## 【1. 現状と課題】

### ① 構想区域の現状

北九州医療圏の人口推移についてみると2015年現在約110万人いる人口が2040年には約90万人まで減少していく。その人口減少は高齢者の減少、すなわち多死化による。人口変化を前提としたときの傷病別外来患者数の将来推計では、2030年まで現状維持、その後低下していく。傷病別入院患者数の将来推計では、急性期、回復期、慢性期合計の入院総数としては2030年くらいまで20%程度増加し、その後減少すると予想される。傷病別では骨折、肺炎、脳血管障害が約30%増加すること、妊娠・分娩は減少一方で2040年には40%減少すると予想される。

構想区域における入院機能としては5疾病（がん、脳血管障害、虚血性心疾患及び慢性心不全、糖尿病、精神疾患）、小児、周産期、救急のいずれにおいて現時点で不足している機能はない。

北九州区域の病院数は平成26（2014）年現在で102 施設であり、このうち一般病院は87施設である。許可病床数は、一般病床が12,427 床（病院10,941 床、有床診療所1,486 床）、療養病床が5,423 床（病院5,119 床、有床診療所304 床）となっている。一般病床の人口10 万人当たりの病床数は1,112.1 床で、全国平均（783.1 床）を上回っており、また、療養病床の人口10 万人当たりの病床数は485.3 床で、全国平均（267.2 床）を上回っている。このように北九州地域は病床数において不足している状況にはない。しかしながら、許可病床数は、過去5 年間（平成21（2009）年ー平成26（2014）年）で550 床減少していることにも留意が必要である（一般病床が321 床（▲2.5%）、療養病床が229 床（▲4.1%）減少）。構想区域の地域医療支援病院は10施設あり、他地域と比べて多くなっている。

厚生労働省「医師・歯科医師・薬剤師調査」による平成26（2014）年12 月31 日現在で医療施設に従事している医師の数は3,372 人で、人口10 万人当たり302.0 人となっており、全国平均（231.5 人）を上回っている。診療科（小児科、産科・産婦人科、外科、麻酔科、救急）別でも、全ての診療科で全国平均を上回っている。医師の年齢別分布では、医師数は60 歳以上が最も多くなっているものの、20 歳代から50歳代にかけて安定した分布となっている。看護職員業務従事者届による平成26（2014）年12 月31 日現在の看護職員数は18,378 人（保健師315 人、助産師361 人、看護師13,644 人、准看護師4,058 人）で、人口10 万人当たり1,645.8 人となっており、全国平均（1,177.1 人）を上回っている。看護職員の年齢別分布では、20 歳から34 歳にかけてが最も高い割合であり、今後の看護職員の確保に関しても大きな問題はないと予想される。

病床機能報告に基づき、病床の機能別に現状の病床数と平成37（2025）年の必要病床数の推計値を比較すると、回復期では現状の病床数が必要病床数を2,411 床下回っている。また、高度急性期も214 床下回っているが、高度急性期と急性期の合計値と比較した場合は1,847床上回っている。

### ② 構想区域の課題

上記より当構想区域の課題を整理すると以下のようになる。

- ・現在の急性期医療の機能の維持（がん、虚血性心疾患、脳血管障害、救急、小児、周産期など）
- ・回復期機能の充実
- ・急増する高齢患者に対応するためのシステム作り（急性期から慢性期、在宅、介護を総合的につなぐ連携体制の確立、特に介護現場で多く発生する肺炎や骨折、尿路感染などの急性期イベントの予防及び対応体制の整備）
- ・上記課題に対応するための人材育成
- ・上記課題に対応するための情報基盤の整備

### ③ 自施設の現状

#### 患者動向（別添資料 1）

北九州医療圏には十分な数の急性期医療施設が存在し、概ね門司・小倉、戸畑・若松・八幡東区、八幡西区・遠賀・中間の 3 地域でそれぞれの主要な医療機関が担っている。当院の主な患者来院地域としては八幡西区・若松区・中間市・遠賀 4 町であり、年齢構成は人口構成と同じく 60～70 代が最も多い。また、隣接する直方・鞍手、宗像医療圏からの患者にも対応している。

近年の患者数推移は、新入院患者数は微増傾向にあるものの、医療の高度化による在院日数短縮の進展もあり病床稼働率は低下傾向にある。

#### 医療提供（別添資料 2～5）

大学病院であるため、歯科・口腔外科、神経精神科、周産期等を含め全ての診療分野の入・外の医療に対応している。（資料 2）

特にがん診療については、高度な医療機関が多い医療圏内でも各臓器全般に渡った集学的診療を行っており、八幡西区、遠賀・中間においても独立行政法人地域医療機能推進機構九州病院とともに中心的役割を担っている。また、自己免疫疾患のように医療圏全体を広域にカバーしている専門分野もある。（資料 3・4）

救急医療については医療圏内・地域内に高度な受入機関が多数あることから、現状では主には近隣地域の救急医療を担っている。（資料 5）

#### 施設・設備

開院から約 40 年近くが経過し、最新医療に対応するには施設・設備の拡充、刷新が必要な時期となっている。

#### その他

医師数が多いが、大学病院として学生・臨床研修の教育、臨床研究に加え、地域の医療機関への医師派遣により地域医療の一旦を担うという機能もある。

### ④ 自施設の課題

#### 患者動向

当院の主な患者来院地域に大きな変動は無いものと考えられるが、60～80 歳台の患者の増加により脳・心大血管疾患、老人性の骨折、肺炎等の救急需要の増大への対応が必要となる。

#### 医療提供

今後増加する脳・心大血管疾患の超急性期医療及び救急医療全般（精神疾患を持つ身体疾患患者への救急対応を含む）についての体制充実が必要であるとともに、近隣地域の主要な救急受入医療機関との機能分担及び地域の亜急性期、回復・慢性期病床を持つ医療機関や介護施設等との連携をより深めることも課題である。

また、在院日数短縮による病床稼働率の低下傾向はあるものの、今後 2025 年にかけては入院患者数の増加傾向が続くことと併せて医療の高度化による在院日数の短縮は更に進むことが予測される。このため、急性期医療機関としては病床をより効率的に活用することも課題となる。

#### 施設

開院から約 40 年近くが経過し、大学病院としての機能維持のため手術室の面積・数の拡充、また病室についても面積の拡大等の大規模な施設・設備投資が必要な時期となっている。

#### その他

今後増加する領域への診療機能、学生・初期研修への教育等の充実のため診療科の増設等も課題である。

【2. 今後の方針】 ※ 1. ①～④を踏まえた、具体的な方針について記載

① 地域において今後担うべき役割

大学病院であることの特性を踏まえて、全診療科に対応した高度急性期・急性期医療を行い、特にがん、自己免疫疾患等の難治性疾患の診療や周産期医療の中核としての役割を担うとともに、医師派遣や教育・研究等の機能についても、これまで通り、今後も維持・充実を図ることが当院の最も大きな役割である。

また、地域の医療機関、介護施設等との機能分化・連携を密にした地域完結型医療を基本とした運営も地域における重要な役割と考える。

このため以下の施策を検討中である。

- ・脳・心大血管疾患の増加に対応するため心臓血管外科、脳血管内科の医師体制の充実と手術設備の拡充
- ・主に3次を対象とした救急体制の充実と学生・初期研修医への教育のため総合診療部門を設置
- ・地域で唯一の精神病床を持った急性期病院であることを踏まえ、精神疾患と身体疾患を同時に診療が必要な患者に対する救急医療対応の整備
- ・がん診療の基幹病院として、症例の増加と高度化するため外科技術に対応するため手術室の拡張、増設及び高度医療機器の導入
- ・一部病室をリニューアルし療養環境を改善
- ・患者数は減少傾向となるものの総合周産期医療は継続して実施し、更に充実させるため小児外科部門を設置
- ・本学設立の趣旨に沿った、治療と仕事の両立を支援する医療サービスの提供

② 今後持つべき病床機能

北九州医療圏は急性期～回復期～慢性期に至るまで医療機関が充実している中で、当院は大学病院としての高度急性期・急性期病床機能をこれまでどおりの病床数で維持する。

③ その他見直すべき点

大学病院として非採算部門も含むすべての診療科による急性期医療を維持しつつ、教育・研究や地域の医療機関への医師派遣等の機能も維持することが当院の役割である。施設・設備投資も含めてこの役割・機能を今後も維持し続けるためには、現在の病床数・機能により一定の病床稼働による良好な収支状況を維持しなければならない。

2025年までは75歳以上人口増により推計入院患者は増加の見込みにあり、医療の高度化による在院日数短縮の進展を考慮しても概ね90%程度の病床稼働率で推移すると考えられる。ただし、2025～2040年にかけての推計では入院患者数は約4%の減少に転ずる見込みとなっている。

このため、2040年にかけては、患者数動向によって急性期病床のダウンサイジングや、がん診療充実の延長として在宅診療のレスパイト入院、治療継続中の社会的入院、がん治療と仕事の両立支援等に幅広く対応する病床へ一部病床を限定的に転換することも検討する。

【3. 具体的な計画】 ※ 2. ①～③を踏まえた具体的な計画について記載

① 4 機能ごとの病床のあり方について

＜今後の方針＞

	現在 (平成28年度病床機能報告)		将来 (2025年度)
高度急性期	557床	→	557床
急性期	81床		81床
回復期			
慢性期			
(合計)	638床		638床

② 診療科の見直しについて

検討の上、見直さない場合には、記載は不要とする。

＜今後の方針＞

	現在 (本プラン策定時点)		将来 (2025年度)
維持	膠原病リウマチ内科、内分泌代謝糖尿病内科、循環器内科、腎臓内科、消化管内科、肝胆膵内科、血液内科、呼吸器内科、神経内科、心療内科、神経・精神科、小児科 消化器・内分泌外科、呼吸器・胸部外科、心臓血管外科、脳神経外科、整形外科、皮膚科、形成外科、泌尿器科、眼科、耳鼻咽喉科・頭頸部外科、産婦人科、放射線科 放射線治療科、麻酔科、リハビリテーション科、救急科、歯科・口腔外科、病理診断科	→	膠原病リウマチ内科、内分泌代謝糖尿病内科、循環器内科、腎臓内科、消化管内科、肝胆膵内科、血液内科、呼吸器内科、神経内科、心療内科、神経・精神科、小児科 消化器・内分泌外科、呼吸器・胸部外科、心臓血管外科、脳神経外科、整形外科、皮膚科、形成外科、泌尿器科、眼科、耳鼻咽喉科・頭頸部外科、産婦人科、放射線科 放射線治療科、麻酔科、リハビリテーション科、救急科、歯科・口腔外科、病理診断科
新設		→	小児外科、脳血管内科、総合診療科
廃止		→	
変更・統合		→	

③ その他の数値目標について

医療提供に関する項目

- ・ 病床稼働率     :     90%以上
- ・ 手術件数       :    8,800件
- ・ 紹介率          :     90%
- ・ 逆紹介率       :     70%

【4. その他】  
(自由記載)